

「第3次栗東市食育推進計画」(案)に関する
パブリックコメントの結果について

1. 意見募集の概要

(1) 意見募集の期間

令和元年12月25日(水)午前8時30分～令和2年1月20日(月)午後0時00分

(2) 意見募集の周知方法

広報りっとう、市ホームページ等

(3) 閲覧場所

健康増進課窓口(総合福祉保健センター内)、市役所(1階情報公開コーナー)、各学区コミュニティセンター、市ホームページ

(4) 意見の提出方法

持参、郵送、ファックス、Eメール

2. 意見募集の結果

提出件数： 23件(22名)

意見の内容を一部要約して記載しております。

意見 番号	意見の要旨	市の考え方
1	<p>(38 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 4 新たな課題②食品ロス削減の推進)</p> <p>(47～49 ページ 第4章食育推進の取組2<つながる>食を通したつながりを意識し感謝の心を育む)</p> <p>新たな課題に食品ロス削減の推進についてあげられていますが、それに関する取組が盛り込まれていないので、計画に反映していくべきだと思います。</p>	<p>食品ロス削減は、国・地方公共団体・事業者それぞれが責務を果たした上で、消費者の取組や関係者相互の連携・協力のもと推進する必要があります。そのため、食品ロス削減のためには、食育の推進活動だけでなく、社会全体での取組が必要と考えられます。その中で食育推進計画では、自然の恵みや生産者への感謝の心を育む取組や食への関心を深めることが、食品ロス削減への理解と関心を深めることに寄与すると考えられるので、取組を追加して記載します。</p> <p><計画書の変更></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画書 P38 ②食品ロス削減の推進 5 行目 「食品ロス削減について検討していきます」→「食品ロス削減への関心を深めることが重要です」に変更 ・計画書 P48 第4章 食育推進の取組 No. 42 「食品ロス削減推進事業」を追加
2	<p>(17 ページ 第1章市民の健康等の状況 2 市民の健康等の状況 (3)①カルシウムの摂取量)</p> <p>7～14歳の男女ともにカルシウムの摂取量が極端に低いため、全ての子どもたちに対して少しでもカルシウム摂取量が増えるように、学校給食の充実、特に週1回のお弁当の日をなくしてください。</p>	<p>調査時点の平成27年度は、中学校給食が休止していたこともあり、カルシウム摂取量の数値が低い傾向にあります。対策として平成30年9月より給食を中学校へ拡大し、週4日の給食と1日のお弁当日に牛乳を提供していますので、カルシウム摂取量の数値は改善に向かうものと考えられます。</p> <p>ご意見につきましては、貴重なご意見として、今後の推移を見てまいります。</p>

3	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>お弁当の日に菓子パンやコンビニ弁当を持って行く子がいる現状から、栄養バランスがとれるように、週5回の学校給食を実施してください。子どもたちの調理体験は、年1～2回行事として「お弁当の日」を設けることにより、多くの子どもたちが参加出来ると思います。</p>	<p>調理をはじめ、農業(栽培・収穫)、共食などの体験は食育に重要であると考え、第2次計画では基本目標の一つとして「たいけん」を掲げてきたところです。第3次計画においても「基本目標【つくる】」の取組として、お弁当づくり、栽培活動、料理教室など、体験を通して食への関心を深めていきたいと考えています。お弁当づくりだけでなく、様々な機会をとらえて、子どもたちの体験の機会を増やすことができるよう、計画書の表現を下記の通り変更します。</p> <p>小学校中学校での週1回のお弁当につきましては、学校給食共同調理場の整備、中学校給食の実施に際して、建設検討委員会において、安全で安心な給食の実施、栄養バランスのとれたおいしい給食の提供、食育の推進活動に貢献できる施設整備などを基本理念に、市民意見も取り入れた協議・検討を行い、家族コミュニケーションが図れ、保護者への感謝の気持ちを育む機会にもなって良いことから継続実施することとしたところです。</p> <p>週5回の学校給食の実施に関するご意見につきましては、貴重なご意見として、今後の参考とさせていただきます。</p>
4	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>子どもに弁当を作らせても弁当箱に詰めるだけ、もしくは冷凍食品になり、調理体験という主旨から外れると思います。共働きだと特に限られた時間となり、冷凍食品中心の弁当やコンビニ弁当となる日もあり、本末転倒ではないでしょうか。給食は、地元や季節の食材を使っており、家庭とは違う味で、食育に繋がると思っています。弁当の日の定義が腑に落ちない理由ばかりです。</p>	<p><計画書の変更></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画書 P3 下から3行目 「給食に対する期待や関心が高まるなか、週5日の給食実施を望む声もあがっています。」と一文を追加 ・計画書 P37 ③調理体験の不足3行目 「お弁当の日を小学校中学校で週1日は継続実施していくことを含め、今後も子どもたちの調理体験の確保が重要です」→「学校や地域、家庭など様々な機会をとらえて、今後も子どもたちの調理体験を増やすことが重要です。」に変更 ・計画書 P51 上から3列目 No. 56 「中学校のお弁当づくり調査」→「中学校のお弁当づくり等調査」に変更
5	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>週に1度お弁当にしたところで、調理体験の不足が改善されると思えません。共働きをしていて朝から晩まで働く中、栄養バランスのとれた給食が提供されることがどれだけありがたく安心か、どんな家庭の子どももみな平等に栄養ある食事が確保されること(週5の給食)を願います。</p>	
6	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>梅雨から秋にかけては蒸し暑い日が多く、衛生上を配慮した弁当が必要となります。弁当は限られた食材しか使えず、栄養バランスは給食の方が優れていると思います。『早寝早起き朝ごはん』に呼応し家庭の朝食の手伝いをして朝食をしっかり摂取して、昼食は給食を食べたほうが成長期には望ましいと思います。週1回の弁当日はぜひ見直すべきです。</p>	

7	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>朝に親が調理を教えながらお弁当を準備することが効果的な調理体験だとは思えません。「調理体験の確保」はお弁当作り以外の形で推進いただきたいです。また、地産地消・郷土料理が給食よりも適切に心掛けられたお弁当が作られているとは思えません。中学校給食開始以降、栄養バランスもお弁当だった時期と比べ向上しているのではないのでしょうか。</p> <p>一日でも多く、全ての小・中学生が、より健康的な昼食が摂れることを願い、小・中学校給食を全日実施されることを希望します。</p>	
8	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>週に1回のお弁当日をなくして、平日はすべて給食にしてほしいです。調理は必要に駆られれば誰でも行うため、お弁当でなく別の形で調理体験を実施すべきだと思います。</p>	
9	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>共働きのため週一回のお弁当作りが負担です。好き嫌いも多く、給食でバランスのとれた食事を提供してもらえることが助かっています。朝の時間に起きるのもやっとの子どもが、自分でお弁当を作るとは考えられません。お弁当日をなくして毎日給食にしてもらいたいです。</p>	
10	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>お弁当の日をやめて、完全給食にしてほしいです。朝の忙しい時間で作る弁当であればなおさら、弁当作りが食育につながるとは思えません。むしろ栄養面での偏食助長につながりかねないと思います。求められているのは学校における食育の推進、学校給食の充実ではないのでしょうか。</p>	

11	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>栄養のことや、何を食べるか考えるなどの調理体験は、今後の生活にも役立つためとても良いと思いますが、お弁当という形でなくても調理体験はできるのではないかと思います。</p> <p>誰もが楽しく栄養がとれる給食を願います。</p>	
12	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>近年共働きの家庭は増加しつつあります。調理体験の名の下でお弁当を作るということは、親も子も大変です。子どもたちの調理体験については、休日に親子で作るほうがゆとりを持って楽しく調理ができるのではないのでしょうか。「給食」と「調理体験」は切り離して考えていただき、完全給食の実施をお願いします。</p>	
13	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>忙しい朝の時間に、子供を送り出すだけでなくお弁当を作るのは大変です。栄養的にも安心な給食をと望みます。</p>	
14	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>栄養士さんが考えて作られた給食は、栄養面において重要な役割を持っていると思います。共働きの多い家庭の現状では、お弁当は冷凍食品をつめるだけなど調理といえるものではなく、さらに気温の高い季節には食中毒の恐れもあります。</p>	

15	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>私の家では、子どもと一緒に調理する時間は週末にとるもので、朝には負担が大きいです。弁当は衛生面から入れられるものが限られており、栄養面からも問題が多いと思います。</p>	
16	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>お弁当日の導入理由が「子どもの希望」「調理体験不足対応」と聞き、納得できません。食育の主要な目的にこそ目を向け、どの子どもも適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ることのできる計画を強く願っています。</p>	
17	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>朝に早起きをしてもお弁当を作る余裕がなく、毎日給食にしていたら、体だけでなく心にゆとりができてありがたいです。</p>	
18	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>貧困層の子どもらにとって、給食の機会が減る週1日の弁当日を見直すべきだと思います。</p>	
19	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>働いているので朝から栄養を考え弁当を作るのは大変です。冷凍食品に頼ってしまう時も多いので給食の方が栄養バランスもとれるので給食を週5日にしてほしいです。</p>	

20	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>共働き家庭が増加の一途をたどるなか、週1弁当は時代と逆行しています。出張で家を空けることもあり、その場合弁当作りは負担がかなり大きく、温かい給食を食べる方が子どもにとって良いと考えます。</p>	
21	<p>(37 ページ 第2章第2次計画の取組と評価 3たいけん(2)③調理体験の不足)</p> <p>調理体験については、お弁当作りではなく、時間のある休日に家族そろって献立を考え、炊事して食事するほうがよほど食教育になるのではありませんか。</p>	
22	<p>(栗東市小学校の完全給食の要望)</p> <p>毎日のバランスのとれた給食は、皆が同じものを一緒に食べることで偏食の克服に寄与すると思います。お弁当の日が週1日あると、その子にあったものしか作れません。親子でお弁当を作るといのは、給食でなくても自宅で昼食・夕食づくりを手伝うことで十分できるため、栗東市小学校の完全給食を要望します。</p>	
23	<p>共働きなどの家庭にとって、週一回のお弁当日は負担が大きいです。週5回の完全給食を実施してください。調理体験や親子のふれあいは、別の方法で考えていくべきです。</p>	